

2019.10.27 第4主日礼拝

ネヘミヤ 6:15-19 「内と外の妨げに対して」

聖書

15 こうして、城壁は五十二日かかって、エルルの月の二十五日に完成した。

16 私たちの敵がみなこれを聞いたとき、周囲の国々の民はみな恐れ、大いに面目を失った。この工事が私たちの神によってなされたことを知ったからである。

17 またそのころ、ユダの有力者たちはトビヤのところにひんぱんに手紙を送っていて、トビヤも彼らに返事をしていた。

18 それは、トビヤがアラフの子シェカンヤの婿であり、また、トビヤの子ヨハナンもベレクヤの子メシュラムの娘を妻に迎えていたので、彼に誓いを立てていた者がユダの中に大勢いたからである。

19 さらに、彼らは私の前でトビヤの善行を語り、彼に私の言うことを筒抜けにしていた。トビヤは私を脅すために、たびたび手紙を送って来た。

はじめに

今回はネヘミヤ3章からエルサレムの城壁再建の特色は、お互いに連携して作業にあたったこと、まず自分の家の周りから修復したことの2点を学びました。「こうして、城壁は五十二日かかって、エルルの月（今の8～9月頃）の二十五日に完成した。」（6:15）と記されています。52日間という短期間で完成したことに驚きますが、それは互いの協力の実であり、工事の段取りの巧みさであり、工事の士気が維持された結果であると共に、「私たちの神が私たちのために戦ってくださるのだ。」（4:20）という神さまへの信仰によることを見落としてはなりません。神さまは私たちの祈りや信仰に応じて事を導かれるお方です。城壁再建が単なる土木工事として語られる以上に、霊的な営みであったことに目を向けなければいけません。信仰による戦いの勝利として、城壁再建を喜びたいと思います。

1. 問題はつきもの

神さまはご自分への信仰によって始まった工事を最後まで導かれる方ですから、私たちが今取り組んでいる信仰の働きに対しても希望を持って取り組み続けていきたいと思えます。「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。すべてのことを、不平を言わずに、疑わずに行いなさい。」(ペリピ 2:13, 14)。

しかし、信仰による働きだからと言って、そこには何の問題もないとは言えず、様々な問題が持ち上がってきます。実際にネヘミヤが城壁の再建に取りかかった時、いくつも問題が発生しました。その一つ一つに対処する姿が4~6章に記されています。大きく3つの問題が生じました。一つは敵の工事妨害です。二つ目は内なる経済的な戦いです。三つ目はネヘミヤ個人に対する妨害です。これらに対してどのように対応したのでしょうか。この対応の仕方に、リーダーとして卓越した人物であるゆえんがあるのです。

2. 外からの妨げ

まず、敵の工事妨害はどのようなものでしょうか。4:1に「サンバラテは私たちが城壁を築き直していることを聞くと、怒り、非常に憤慨して、ユダヤ人たちを嘲った。」と言葉による妨害があったことを記しています。「彼らが築き直している城壁など、狐が一匹上っただけで、その石垣を崩してしまうだろう。」(4:3)と嫌味たっぷりに嘲っています。この工事がペルシア王のお墨付きであったことから、敵は武力で工事を妨げることができなかったのです。それでことばで攻撃してきたわけです。

ことばによる攻撃は何もこの城壁再建に関してだけでなく、あらゆる世界に満ちています。ことばの暴力は自分も人も傷つけ、または傷つけられて痛みをもたらす深刻な問題だと言えます。恫喝、脅し、人格否定と言ったことばを浴びせられるとき、人は深く傷ついてしまいます。お互いにことばに対する責任を負っていることを弁えて、人を傷つけることばではなく、人を建て上げることばを発する者とさせていただきたいと思えます。多くの場合、ことばの攻撃に対して「言われたら言い返す」態度を取ります。「売り言葉に

買い言葉」というように激しいことばを返すこともあります。ネヘミヤが取った態度はことばでの報復ではなく「そこで私たちは、私たちの神に祈り…」(4:9)という祈りの姿勢でした。人の嘲りは神への祈りの前には何の効力も持ちません。私たちもこのネヘミヤの態度に倣う者でありたいと思います。

3. 内なる妨げ

外からの攻撃だけでなく工事に携わる民の側からも問題が起こりました。一つは城壁が崩されたままの荒れすたれた現実に対する失望と落胆です。人は目の前の現実に弱いです。見えるところが上手くいけば喜びますが、困難になると失望し諦めてしまいます。ユダの人たちは言いました。「荷を担ぐ者の力は弱り、瓦礫は山をなしている。城壁を築き直すことなど、私たちにできはしない。」(4:10)。確かに目の前の現実は一筋縄ではいかない、敵の攻撃も激しいです。しかし、恐れるべきはそうした現実でもなければ、敵の声でもありません。人が本当に恐れなければならないのは神さまご自身に対してであり、神さまへの疑いや、神さまの約束を地に落とすような否定的な態度を取ることです。人が神さまを恐れるとは神さまの権威や約束に対して真実に応答することですから、目に見える現実がどんなに厳しくても、神さまに期待して歩みましょう。

もう一つ内部から生じた問題がありました。「さて、民とその妻たちから、同胞のユダヤ人たちに対して強い抗議の声があがった。」(5:1) のです。うっ積していた不満が一気に噴き出しました。それは深刻な経済危機に直面していたからです。このとき三つの課題を抱えていました(5:2~5)。(1) 家族が大勢いるにもかかわらず、家族を養う食糧を得ることができない。(2) 土地や財産を持っていたが、「ききん」によって畑や家を抵当に入れなければならなくなった。(3) ペルシアの王に支払う税金のために、多額の負債を抱え込み、しかもその負債を返す力がなかったために、自分たちの息子や娘たちを奴隷として売らなければならなかった。このように内部に問題を抱えていると外に向かって出て行く力は削がれ、もしそれを放置するなら組織として弱体化していきます。

この問題に対してネヘミヤは集会を開いて人々を集め、みんなの前で問題を明らかにし、民の有力者や代表者を非難し、「あなたがたのしていることは良くない」(5:9) とはっきり指摘した上で、負債をすべて免除するように約束させました。そしてネヘミヤは人々に語ったこと以上のことを自分に課し、総督としての給料を受け取らないと言いました。しかも彼が赴任した13年間すべてにおいてです。このように自らも身を切ることによって経済的な危機を乗り越えたのです。

4. こうして、完成した

外からの攻撃、内からの不満と二重の問題に対処し、いよいよ完成に至るのかと思えば、最後にネヘミヤ個人への執拗な攻撃が加えられました。城壁は完成しましたが、まだ門の扉が取り付けられていない状況で、ネヘミヤをおびき出して殺害しようと企てたのです(6:2)。この企ては4回も行われたのですが、その都度断ると今度は、ネヘミヤは自分が王になりたがっているのだと誹謗中傷が始まりました(6:6)。そして最後のとどめは、敵に買収された預言者シエマヤの裏切りでした(6:13)。ネヘミヤは自分に対する個人攻撃にも耐え、人々の前にリーダーとして立ち続けたのです。

「こうして、城壁は…完成した」のです。「こうして」に込められた思いがどれほどであったのかを改めて思い、その背後にある神さまの御手の確かさをこの朝皆さんと共有したいと思います。ネヘミヤが神さまに一切の栄光をお返ししたときに、敵や周辺諸国の人々は「大いに面目を失った。」(6:16) のです。何度もやってくる試練や困難に耐える信仰を与えていただきましょう。私たちの背後で支えてくださる神さまの御手を感じて、今抱える課題に立ち向かうお互いでありますように祈ります。

結び

事の大小に関わらず、何かの行動を起こそうとすると必ず問題が生じます。外からの問題、内からの問題、人の陰謀や悪だくみなど色々な問題が起こることで、働きが中断してしまうことがあります。そのようなときに目の前の

状況に感情的に対応したり、目先の利益や安易な方法でその場しのぎの対応を取らず、事的一切を支配しておられる神さまに祈り、よく考えて（5:7）事を進めて行きましょう。「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。すべてのことを、不平を言わずに、疑わずに行いなさい。」（ピリピ 2:13, 14）。この約束を握って、教会にまた個人に与えられた目標に向かって進んで行きましょう。主が事を成し遂げてくださると信じて祝福をお祈りします。